

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000721		
法人名	有限会社 Human-Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘		
所在地	小樽市長橋2丁目22-4 (電話) 0134-24-2006		
評価機関名	(有) ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月10日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	月平均 30,000円
敷金	有(35,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	250円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,250円		

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均83歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、朝里病院、おきつ歯科、野口整形外科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘に位置するホームのリビング兼食堂からは、小樽の港の全てが一望できる素晴らしいロケーションが広がります。利用者の一人が呟く「一日眺めていても飽きない・・・」も十分に理解できる眺望です。笹藪に現れる鶯の歌と影、夜空を彩る花火も港の海面に映えるなど四季折々の風景画となって、利用者の安心の暮らしに役立っているようです。運営者、ホーム長は些細なことでも利用者本位に考え、改善への取り組みが素早いこともこのホームの大きな特徴と言えるようです。移動動物園の招致による地域の子供さんを交えた交流や広い敷地を利用したイベントなど、地域の一員であることを実践している点で優れており、これからも夢のある取り組みが楽しみなホームであると期待が深まります。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の啓発については、ホームの会報に掲載するほか、会報を近くのコンビニにも置かせて頂いております。また、ユニットの名称、包丁などの危険な物品に管理保管、ホームの看板の改良など、前回の改善課題はほぼ取り組みを完了しており、外部評価への積極的かつ適切な対応は特筆に値すると思慮いたします。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全ての職員が、各評価ごとに自らを振り返って作成するなど、評価に対する関心は深いものがあります。今後は自己評価の末尾にある、サービスの成果に関する項目及び、公表される外部評価を含めて積極果敢な取り組みを期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域住民からなる委員の方々、また、家族の方々の理解と協力により、会議の内容は回を追うたびに内容が充実してきております。これからは自己評価並びに外部評価で取り上げられた取り組みを議題とし、進捗状況の報告やモニター役を担ってもらうなどの活動を期待します。また、町内会の婦人部の方の参加や家族参加の拡大、さらには災害などの緊急避難などへの地域の協力体制についても十分な取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営者、ホーム長、管理者は家族の意見要望、苦情をホーム運営に役立てようとの気構えが明確です。家族に対してホーム独自で行なわれたアンケートもその一端と考え、集計の途にありますがそれらの結果を踏まえた、反省と改善、またホームのサービスの向上への取り組みに大いなる期待をします。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>移動動物園の招致で子供達と利用者の交流、ホームのイベントに地域の方々も参加して利用者とともに楽しんで頂くなど、温もりのあるお付き合いが沢山報告されています。また、地域住民の方が健康の相談に訪ねてきた事例もあり、これまで以上にホームが果たす地域に根ざした運営の広がりへの取り組みが期待されます。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前から地域性を重視してきたホームの運営ですが、最近ではホーム側からの積極的な姿勢が感じられ、地域の中であって利用者の安心した暮らしができるようなサービスへの切磋琢磨が運営理念の中に強くうたわれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常時、身につけているネームプレートの裏面には、理念が印刷されており職員は繰り返し見ることにしています。また、月例の会議でも理念の共有に関して話し合いが持たれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	移動動物園を招致して、可愛らしい動物を仲立ちとした、地域の子供さん達と利用者が一緒に過ごすなど、地域との温かい交流は続けられています。また、町内会事業の一環である廃品回収など職員とともに参加し地域の一員としての暮らしに役立てています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で改善を指摘された事項については、大よそ全ての点で改善及び改善に向けた努力がされています。今回の自己評価も各職員が自分の行動として評価に参加し、改善に向けた取り組みの姿勢が見られます。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、委員の理解のもと、おおよそ2ヵ月毎に開催され、災害時の避難訓練にまで話題がでるなど、熱心な討議がされているようですが、委員の増強、利用者の家族など委員の構成に関してもう少し範囲を広げる必要が感じられます。	○	地域にあってさらに理解を得れるよう、町内会の婦人部の方々の会議出席、また、利用者の家族もより多く参加できるよう配慮をし、具体的な災害時の避難、及び、外部評価、自己評価への取り組み状況について話し合いが行なわれるよう期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は介護保険の事務に留まらず、市の担当者に色々な相談を持ち掛けています。今後は、評価の取り組み状況の報告やホームのイベントへの案内など、幅広い機会を捉えて連携を図る予定が立てられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホーム訪問は、平均月1回強と頻度的にはあまり多くないため、家族への報告は月1回の会報発刊及び電話連絡が多いようです。ホームの行事、利用者の暮らしの状況が満載された会報の送付に併せて、金銭管理の報告、健康状態を記載した個別の「手書きお便り」が家族の安心と信頼を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望、また苦情等を聞きながら、ホーム運営に役立てようとする運営者、ホーム長の前向きな姿勢が見られます。家族が訪問時には忌憚のない話し合いが見られ、また、初めて実施した家族へのアンケート（現在集計中）の効果的運用が期待されます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ベテランの職員が多い中で、新しい職員には早く馴染みとされるよう適切なアドバイスがあり、異動によるダメージを最小限にとどめるよう配慮がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新らしい職員に対しては、法人グループでの研修のほか、ホーム長が講師となって行なわれる研修、また、介護福祉士目指している職員やベテラン職員にも積極的な受講機会を与えるなど、サービスの質の向上を目標に、職員を育てる配慮が見られます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、交流を通じたホーム全体の質の向上を図るため、市内の管理者会議の研修に際し当ホームを会場に提供するなど、交流の機会を作っています。また、先進のグループホームへの見学を行なうなど職員の研修の機会を沢山取り入れています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用する以前に、ホームを見学して頂いたり、職員が家庭を訪問するなどして、顔見知りになり、ホームでの暮らしが円滑に移行できるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩としての敬いを大切にしながら、日々の暮らしをともに支えています。また、利用者の状況はできるだけ詳細に連絡ノートに記載して、職員全体が利用者との良い関係を共有できるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や動作、また、家族からの情報を大切にして、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりのより良い暮らしを支援するため、アセスメント、モニタリングなどは職員からの情報が多く寄せられますが、介護計画を検討する会議には、家族も参加し意見の交換がされている点は大いに評価されるべき事項です。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月をスパンとして見直しがされていますが、利用者の状態の変化に伴い随時見直しが実行されています。この場合も家族と綿密な連携をとり、家族の意見も反映された介護計画が作成されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が利用者とともに宿泊を希望した場合などは、寝具を提供して支援をするほか、病院への送迎、買物への送迎などホームの車両を提供して支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関は2箇所を確保しているほか、内科医の毎週1回、整形外科医の2週に1回の往診を受けて健康管理を行なっています。また、利用者の以前からの掛り付け医への受診に際しても職員が同行するなど支援がされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際には、重要事項の一部として確認書が添付されて、終末期における対応などの指針が記載されおり、家族が目を通すシステムとなっています。今後は家族、掛り付け医を含めた連携、共有とともに職員の教育を図ることとしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアサービスの中で、職員は常に利用者のプライバシーに関して傾注しており、訪問時の受付簿にも改良が見られますが、会報などへの写真掲載に関しては家族の承認を一部得ていない、また、利用者の名入れのオムツが乾されているのが気がかりです。	○	会報に掲載される利用者の氏名、写真は暗黙の了解を得ていることですが、やはり承諾書は必要と思慮し改善の取り組みを期待します。また、利用者ばかりではなく訪問者の目に止まる名入れオムツ類の管理は、配慮が是非必要であり今後の早急な取り組みを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切にしながら、その日、その時の一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けています。買物、散歩など個々の希望にも対応するようにして、その人らしい暮らしを支援しています。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、法人本部の栄養士が作成して、食材も一括用意されています。食事の準備に際しては利用者が調理の下ごしらえ、配膳、食器洗いを職員とともにこなしています。食事は職員も一緒に席に着き、楽しい会話も飛び交う食事の様子を見ることができました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の対応ができています。利用者には少なくとも週2回の入浴ができるよう配慮されています。(夜間の入浴も希望があれば対応し)、家族が訪問時に一緒に入られる場合もあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、日常の暮らしをより充実したものになるよう、自らの力でできることはして頂くような機会を作って支援しています。食事の下ごしらえ、食器洗い、洗濯物たたみ、庭掃除、畑仕事などです。利用者の中には毎月1回、市の文化教室に通い短歌のサークルで楽しむ方もおり、ボランティアと出掛けます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寒さの厳しい冬季間は別として、暖かい日は努めて散歩をしています。また、ホーム車を利用してのドライブも利用者が楽しみにしています。職員は希望を聞きながら外出の機会を支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠はありますが、日中はどこも開放されており、職員の見守りにより安全が確保されています。		

小樽市 グループホーム 自由の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、緊急時の避難訓練、AEDを含む救急救命の訓練など細やかな対応がされていますが、職員の数が少ない夜間での対応に不安を覚えます。また、地域の方々の協力を得る具体策などの検討は十分とはいえません。	○	夜間を想定した緊急時の避難訓練への取り組みに期待するとともに、地域住民の方々の協力を得て、緊急の際の利用者の退避場所など、具体的な取り組みが行なわれるよう期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、法人本部の栄養士による献立及びカロリー管理が行なわれています。また、食事の摂取及び水分摂取はチェック表に細やかな記載され、職員全てが確認するシステムとなっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小樽の港が一望できるリビング兼食堂は、利用者にとって何よりも寛げる空間となっています。廊下の両端には椅子、ソファなどが置かれて居心地よいコーナーがあります。利用者自身が台所を行き来できる開放感も有しており、家庭的な雰囲気も感じられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットは利用者の持込ですが、床面に布団を敷くなど利用者がそれぞれ自分に合った暮らしが見えました。椅子、時計、仏壇、好みの書籍が持ち込まれるなど、本人が居心地の良い空間となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。